

◆研究主題と視点

学びとったことを生活や社会と結びつける児童生徒の育成  
～感性を働かせ、学びを深める授業づくり～

(視点1) 音楽を形づくっている要素の焦点化

(視点2) 音楽を形づくっている要素とイメージをつなげる工夫

◆研究の実際

検証授業 小学校(歌唱・鑑賞) 中学校(歌唱・創作・鑑賞)

(1)題材計画

- ・領域の枠を超えた計画  
(鑑賞→音楽づくり・創作→歌唱) (鑑賞→器楽/歌唱)
- ・他教科との関連

(2)音楽を形づくっている要素の焦点化

- ・自分の考えの根拠としての焦点化
- ・小中での系統性を考えた授業づくり ⇒ 「音色」「旋律」
- ・音楽を形づくっている要素そのものへの理解

(3)音楽を形づくっている要素とイメージをつなげる工夫

- ・学習シート(シンキングツール)
- ・視覚化
- ・対話、問い返し

(4)全体で共有する活動の工夫(学びの意味づけ・価値づけ)

- ・活動のモデル提示
- ・一人のつぶやきをみんなの問いにする
- ・比較化

◆取組成果

- 題材のまとまりを意識した授業づくり  
...領域を越えて音楽を形づくっている要素を焦点化  
→音楽的な見方・考え方を働かせることができた。
- 児童生徒が感性を働かせ、学びを深めるために  
...音楽を形づくっている要素を手がかりとして、児童・生徒が自ら楽曲に対する思いや意図・イメージをもち、表現を工夫しようとする児童・生徒の割合が増えた。

◆今後の課題

- 今後さらに、各領域のつながりや、他教科との関連を意識した題材のまとまりを計画する必要がある。
- 児童生徒が感じ取ったことを表現する方法の幅を広げていくことで、音楽を形づくっている要素とイメージをつなげられるようにする。